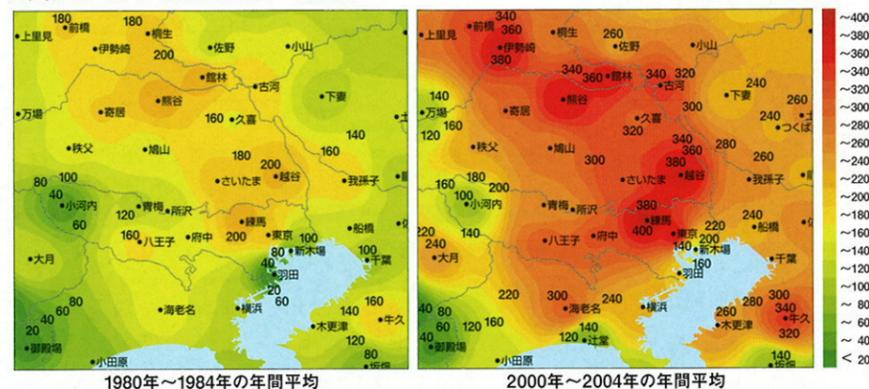


ヒートアイランド現象には、緑化が特に効果的です。

東京の年平均気温は、過去100年で3.0°Cの上昇がみられ、世界全体の平均上昇気温0.6°Cに比べ大きな上昇となっています。また、気温が30°Cを超えた年間平均時間数(右図参照)も過去20年の間に大幅に増えるとともに、熱帯夜(一日の最低気温が25°Cより下らない日)がこの数年は30日を超える状況になるなど、東京の夏はますます暑くなっています。

こうしたヒートアイランド現象の進行は人の睡眠や健康に影響があるだけでなく、局地的な集中豪雨の原因とされるなど私たちの暮らしに大きな影響を及ぼして

■気温が30°Cを超えた延べ時間(単位:時間/年)



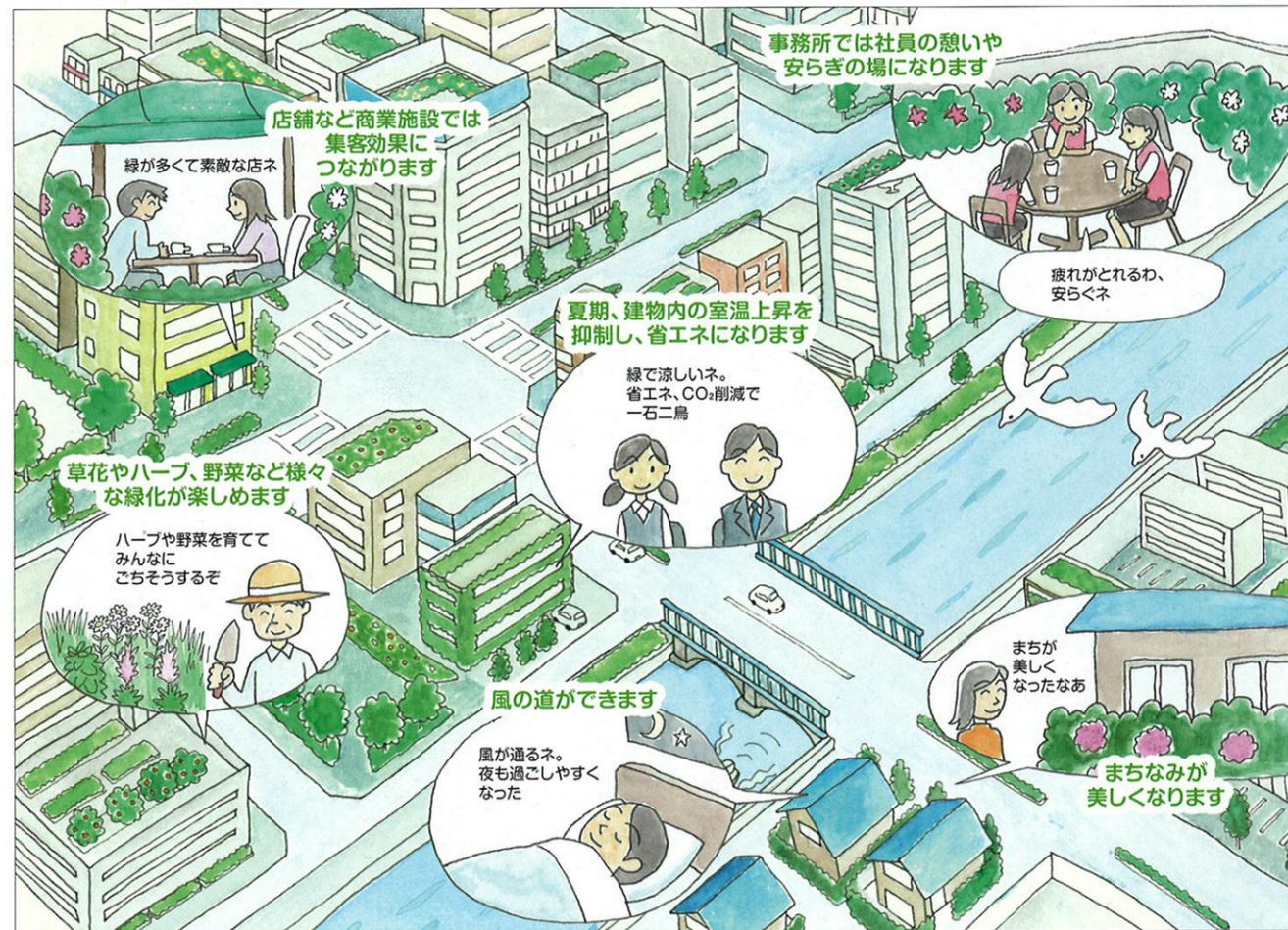
います。ヒートアイランド現象を緩和するには家庭やオフィスの空調設備からの排熱を少なくするなどの取り組みとともに緑を増やすことが特に効果的といえます。

「ヒートアイランド」VS「クールアイランド」

近年、都心では夏の夜間温度が周辺地域より高くなる「ヒートアイランド現象」が顕著になり、私たちにさまざまな影響を及ぼしています。このヒートアイランドに対して、まとまった緑がある大きな公園や樹林の夜間温度は、周辺地域より低くなります。環境省の調査では、皇居から周辺市街地に向かって冷気のにじみだしが観測され、皇居内の8月の気温は周辺市街地より平均1.8°C低いという報告がされています。

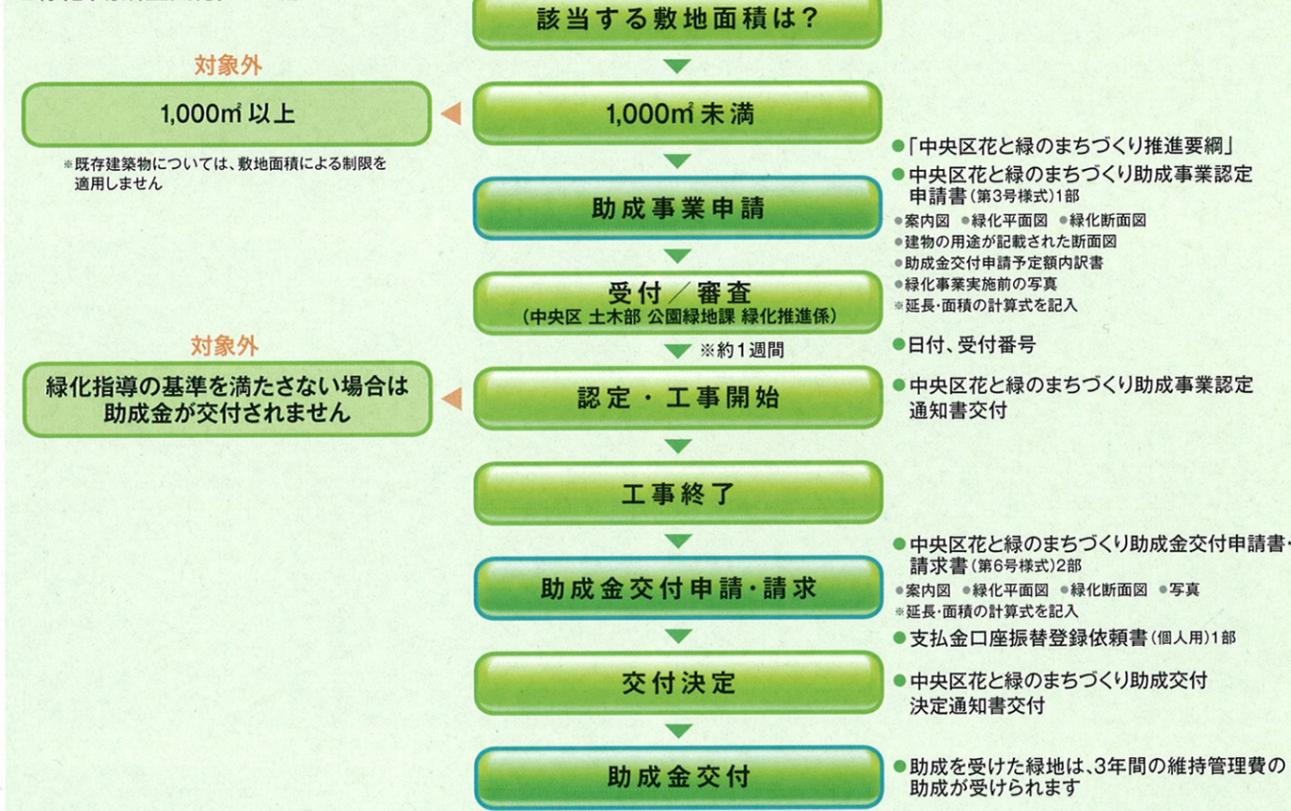
皇居の緑地はクールアイランドになっており、ヒートアイランド現象を緩和しているといえます。緑地の温度が低くなる理由は、植物の葉が行う蒸散による気化熱によるもの。こうした緑の機能などに着目して「中央区環境行動計画」では、晴海通りや八重洲通りなどの街路樹の整備や周辺建物の屋上や壁面の緑化、隅田川や日本橋川などの水辺緑化など、東京湾や隅田川から都心に向かう「風の道」をつくる計画を推進しています。

■緑の効用(概念図)緑化後



中央区では緑化推進のために、助成金交付をはじめ緑化に関するさまざまなご相談にお応えします。

■緑化(助成金交付)への流れ



■主な助成基準「中央区花と緑のまちづくり推進要綱」

助成対象事業	助成率・助成額
緑化事業	<ul style="list-style-type: none"> 新たに緑化区画を設けること。 敷地面積が1,000㎡未満の施設であること。 ・接道部緑化延長、地上部緑化面積又は屋上等緑化面積のいずれかが緑化基準を満たすこと。 ・上記のほか、区長が特に認めたもの。 ・総合設計制度等の適用施設及び他の類似の補助金等を受けている施主は対象としない。 ・1回の緑化事業全体の助成限度額は2,000,000円とする。 ・同一敷地内は5年間再申請できない。
	<ul style="list-style-type: none"> 屋上・壁面等緑化 <ul style="list-style-type: none"> ・住宅系建築物は要した経費の2/3、非住宅系建築物は1/2とする。 ただし、屋上・ベランダは30,000円/㎡、壁面は5,000円/㎡を助成限度単価とする。 地上部緑化 <ul style="list-style-type: none"> ・住宅系建築物は要した経費の2/3、非住宅系建築物は1/2とする。 ただし、接道部は20,000円/㎡、その他は10,000円/㎡を助成限度単価とする。
保護育成事業	<ul style="list-style-type: none"> 緑地の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・緑化助成を受けた緑地であること。 ・緑化事業の助成金交付の翌年度から3年間限りとする。 年間1,000円/㎡とし、同一敷地内の年間の助成限度額は100,000円とする。 樹木の保護 <ul style="list-style-type: none"> ・地上1.2mの高さにおける幹回りが1.2m以上の樹木であること。 年間10,000円/本とし、同一敷地内の年間の助成限度額は100,000円とする。

●助成事業の申請受付をはじめ、緑化の計画や施行方法等のご相談に応じます。お気軽にお問い合わせ下さい。

 **中央区 土木部 公園緑地課 緑化推進係**
中央区築地1-1-1 Tel.03-3546-5434(直通)

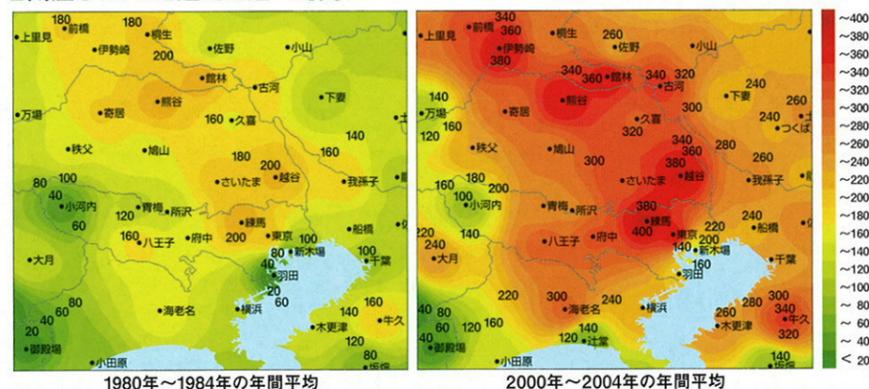
緑化に関する情報は右記のホームページでもご紹介しています。 <http://www.city.chuo.lg.jp/>
中央区公式サイト トップページ ▶ 暮らしに便利な情報 ▶ 建築・まちづくり・道路 ▶ 中央区花と緑のまちづくり推進要綱

ヒートアイランド現象には、緑化が特に効果的です。

東京の年平均気温は、過去100年で3.0℃の上昇がみられ、世界全体の平均上昇気温0.6℃に比べ大きな上昇となっています。また、気温が30℃を超えた年間平均時間数(右図参照)も過去20年の間に大幅に増えるとともに、熱帯夜(一日の最低気温が25℃より下がらない日)がこの数年は30日を超える状況になるなど、東京の夏はますます暑くなっています。

こうしたヒートアイランド現象の進行は人の睡眠や健康に影響があるだけでなく、局地的な集中豪雨の原因とされるなど私たちの暮らしに大きな影響を及ぼして

■気温が30℃を超えた延べ時間(単位:時間/年)



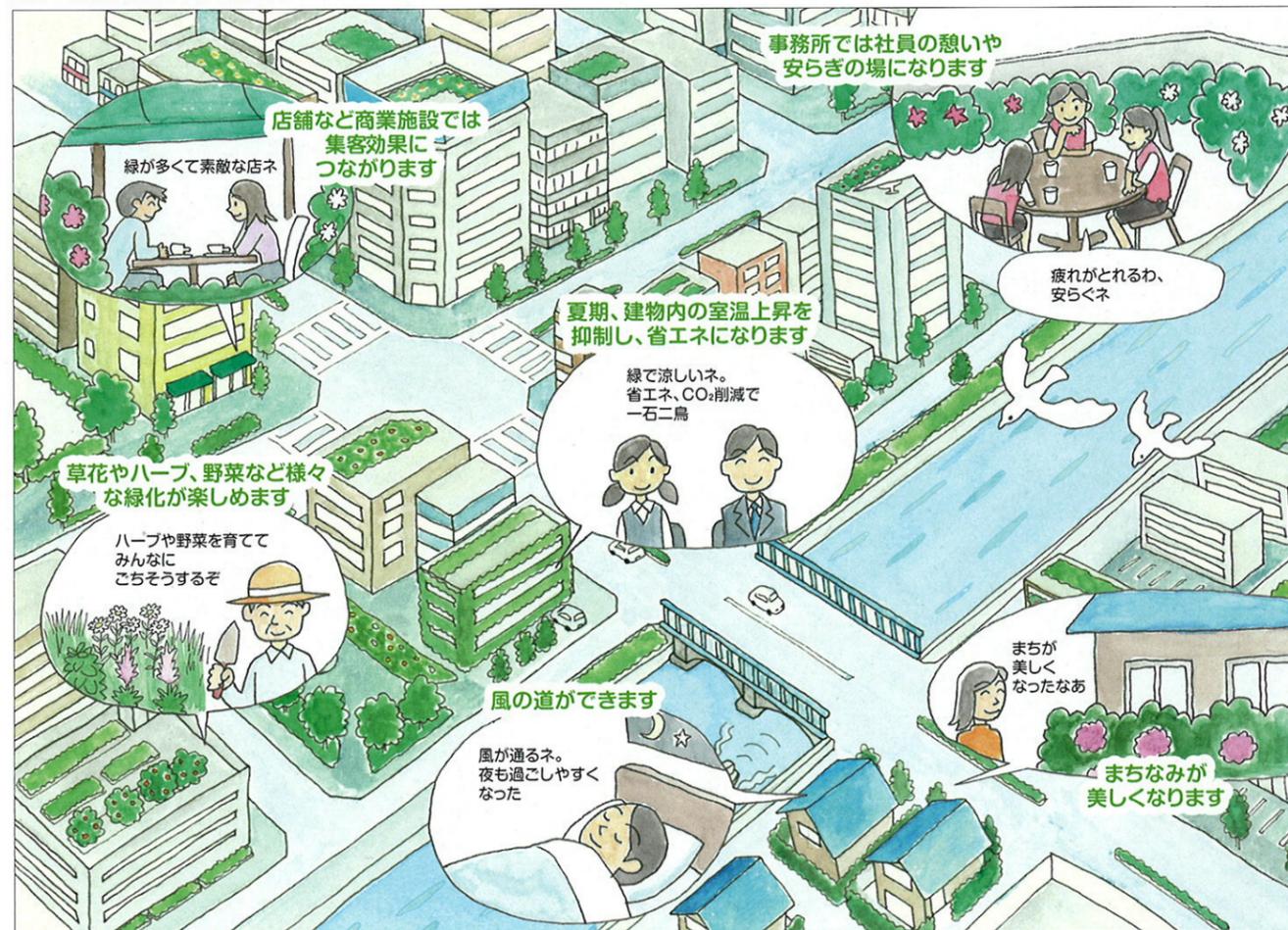
います。ヒートアイランド現象を緩和するには家庭やオフィスの空調設備からの排熱を少なくするなどの取り組みとともに緑を増やすことが特に効果的といえます。

「ヒートアイランド」VS「クールアイランド」

近年、都心では夏の夜間温度が周辺地域より高くなる「ヒートアイランド現象」が顕著になり、私たちにさまざまな影響を及ぼしています。このヒートアイランドに対して、まとまった緑がある大きな公園や樹林の夜間温度は、周辺地域より低くなります。環境省の調査では、皇居から周辺市街地に向かって冷気のじみだしが観測され、皇居内の8月の気温は周辺市街地より平均1.8℃低いという報告がされています。

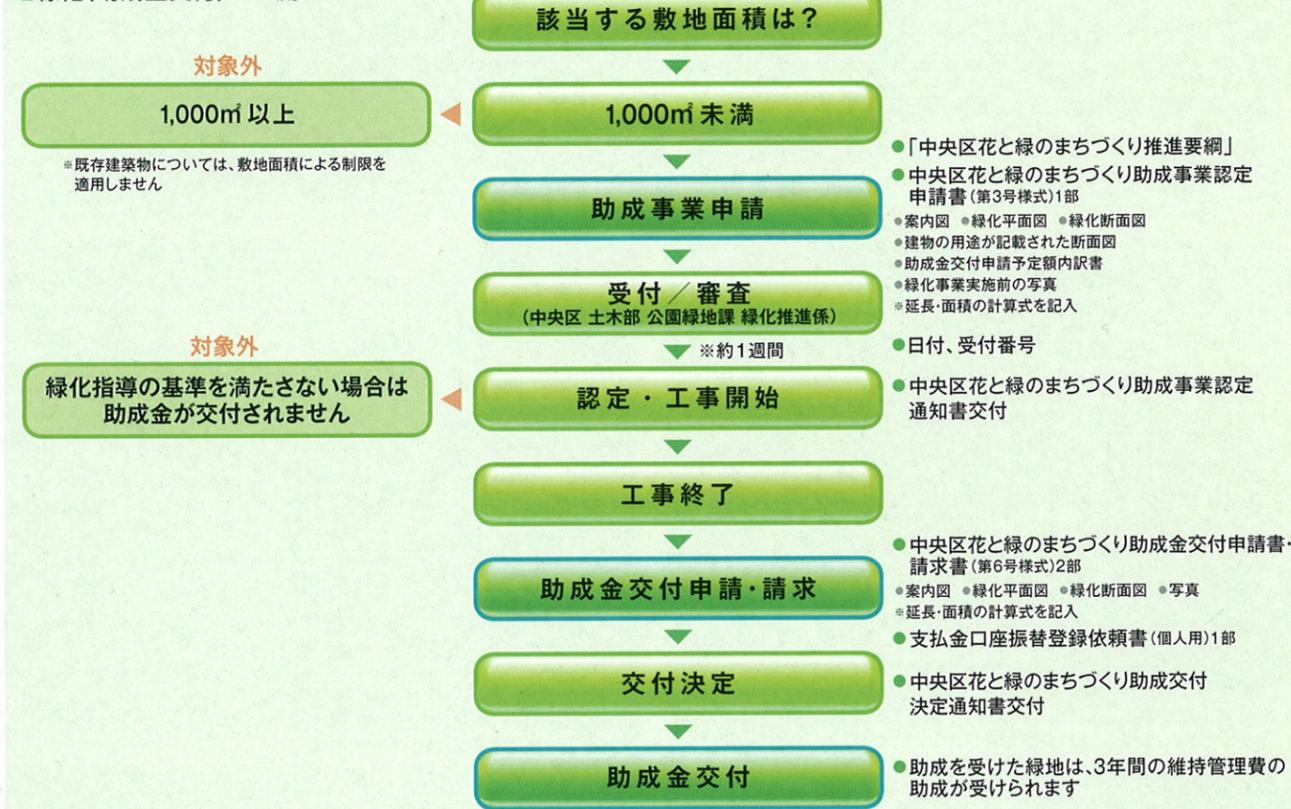
皇居の緑地はクールアイランドになっており、ヒートアイランド現象を緩和しているといえます。緑地の温度が低くなる理由は、植物の葉が行う蒸散による気化熱によるもの。こうした緑の機能などに着目して「中央区環境行動計画」では、晴海通りや八重洲通りなどの街路樹の整備や周辺建物の屋上や壁面の緑化、隅田川や日本橋川などの水辺緑化など、東京湾や隅田川から都心に向かう「風の道」をつくる計画を推進しています。

■緑の効用(概念図)緑化後



中央区では緑化推進のために、助成金交付をはじめ緑化に関するさまざまなご相談にお応えします。

■緑化(助成金交付)への流れ



■主な助成基準「中央区花と緑のまちづくり推進要綱」

助成対象事業	助成率・助成額
緑化事業	<ul style="list-style-type: none"> 新たに緑化区画を設けること。 敷地面積が1,000㎡未満の施設であること。 接道部緑化延長、地上部緑化面積又は屋上等緑化面積のいずれかが緑化基準を満たすこと。 上記のほか、区長が特に認めたもの。 総合設計制度等の適用施設及び他の類似の補助金を受けている施主は対象としない。 1回の緑化事業全体の助成限度額は2,000,000円とする。 同一敷地内は5年間再申請できない。
	<ul style="list-style-type: none"> 屋上・壁面等緑化: 住宅系建築物は要した経費の2/3、非住宅系建築物は1/2とする。ただし、屋上・ベランダは30,000円/㎡、壁面は5,000円/㎡を助成限度単価とする。 地上部緑化: 住宅系建築物は要した経費の2/3、非住宅系建築物は1/2とする。ただし、接道部は20,000円/㎡、その他は10,000円/㎡を助成限度単価とする。
保護育成事業	<ul style="list-style-type: none"> 緑地の育成: 緑化助成を受けた緑地であること。緑化事業の助成金交付の翌年度から3年間限りとする。年間1,000円/㎡とし、同一敷地内の年間の助成限度額は100,000円とする。 樹木の保護: 地上1.2mの高さにおける幹回りが1.2m以上の樹木であること。年間10,000円/本とし、同一敷地内の年間の助成限度額は100,000円とする。

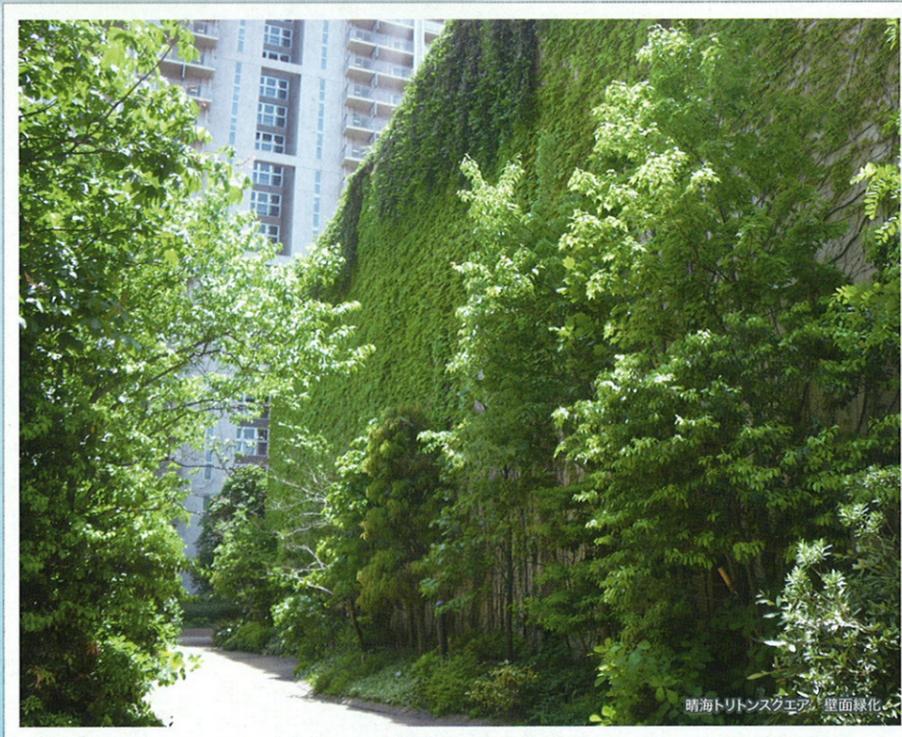
●助成事業の申請受付をはじめ、緑化の計画や施行方法等のご相談に応じます。お気軽にお問い合わせ下さい。

中央区 土木部 公園緑地課 緑化推進係
中央区築地1-1-1 Tel.03-3546-5434(直通)

緑化に関する情報は右記のホームページでもご紹介しています。 <http://www.city.chuo.lg.jp/>
中央区公式サイト トップページ ▶ くらしに便利な情報 ▶ 建築・まちづくり・道路 ▶ 中央区花と緑のまちづくり推進要綱

いき いき みどり粋活

—アーバンオアシス— 緑化の手引き



中央区土木部公園緑地課

中央区の緑は増加していますが、 まだ十分とはいえません。

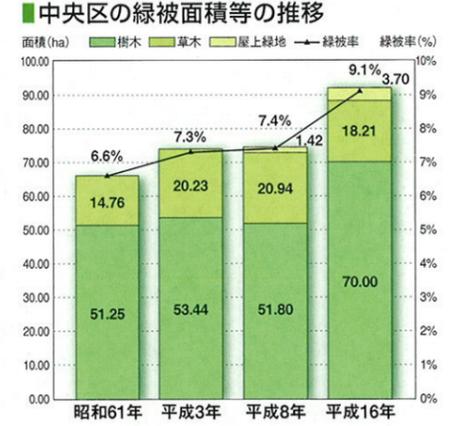
中央区では、平成元年4月、花と緑に包まれた美しいまちを目指して「花の都中央区宣言」を行い、公園や街路樹など積極的な緑化を進めてきました。

平成16年「中央区緑の実態調査」では緑被率は9.1%となり、平成8年の7.4%から大幅に増加しています。これは、日比谷公園1.1倍に相当する面積ですが、活発な経済活動により環境に負荷をかけている都心の中央区では、一層の緑化が必要です。

このため、平成21年3月「中央区緑の基本計画」を改定し、※1緑被率12%、※2緑視率50%などを目標とする取り組みを実施してまいります。

また、中央区はオフィスや住宅などの建物が高密度に建てられていることから、これら民間施設の緑化の充実が大きな課題といえます。

※1:緑被率…一定の区域における緑被地の占める割合をいいます。
※2:緑視率…ある地点における人間の視野内に占める緑の見かけの量の割合をいいます。



緑はさまざまな機能で、 私たちのまちや暮らしを彩っています。

都市景観

- まちなみ景観の向上
- 歴史や文化のシンボル
- まちの個性や文化の印象づけ

環境改善

- 地球温暖化の防止
- ヒートアイランド現象の緩和
- 大気の浄化
- 騒音の緩和
- 雨水の保水
- 生き物の生息空間

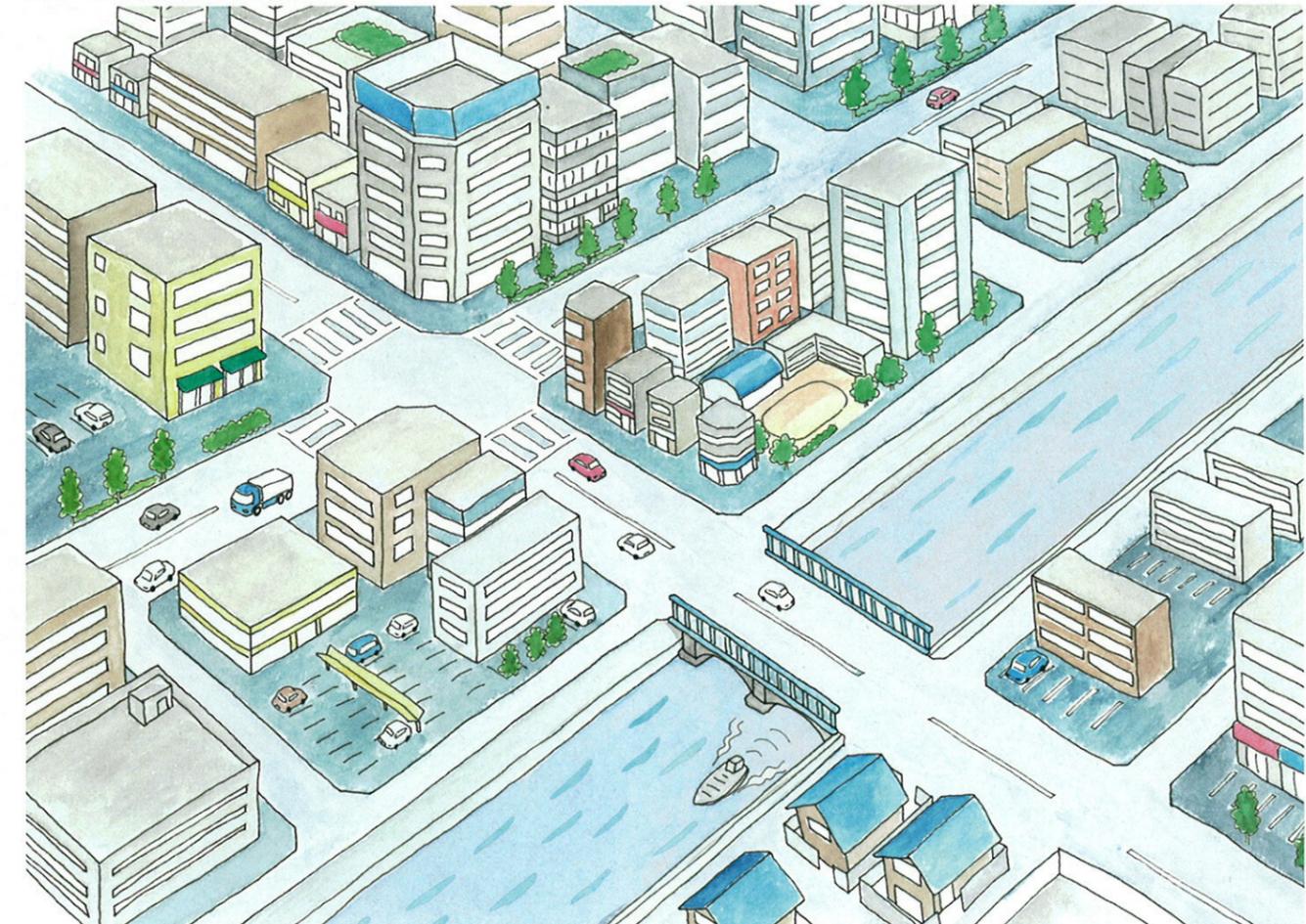
レクリエーション

- やすらぎや憩いの場
- スポーツなどアウトアの場合
- 健康増進や休息の場
- 自然とのふれあいの場

防災

- 地震や水害、風害などの自然災害の緩和
- 火災の延焼遮断
- 避難地・災害復旧拠点

■緑の効用(概念図)緑化前





壁面緑化

狭い緑化スペースで実感できる豊かな緑が出来ます。

緑化のポイント

- 壁面緑化は特に方位を選びません。緑化に好ましくないとされる北側においても可能です。
- 夏季の日差しをさえぎるため、アサガオやヘチマなどの1年性ツタ類を使用する「緑のカーテン」もあります。キュウリやニガウリなどの野菜類を使用すれば収穫も楽しめます。
- 風通しを良くし、病害虫を防ぐとともに、枝分かれを促し、被覆を早くするため、刈込・剪定が必要です。



店の風格を高めるオオイタビによる緑化(直接登はん型)



学校の風格を高める緑化(直接登はん型)



ヘデラによる公共施設の緑化(巻き付き登はん型)



カロライナジャスミンによる緑化(巻き付き登はん型)

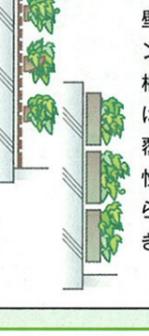


ヘデラによる緑のカーテン(下垂型)



数種類の植物による緑化(プランター・ユニット型)

■ 壁面緑化手法の選択

タイプ(形式)	特徴	注意点	代表的な植物
直接登はん型	 <p>壁面を登はんし、覆うタイプ。壁面に直接付着するため、特別な設備が不要で、最も安価に緑化できる。住宅を中心に最も普及している工法。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 生育範囲(被覆する範囲)を限定できないため、放任すると著しく繁茂して不快な印象を与える。 ● 繁茂しすぎた枝や肥大した大枝は定期的な剪定が必要。 	 <p>ナツツタ オオイタビ</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ナツツタ ● オオイタビ ● ヘデラ・ヘリックス ● ノウゼンカズラ
巻き付き登はん型	 <p>壁ネットや支柱などの支持体を設置し、植物を絡ませて壁面を覆うタイプ。生育範囲が限定しやすく比較的小面積でも用いられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ケーブルやコード、雨樋などにも巻き付くために向きを導く「誘引」や徒長枝を除く「剪定」が必要。 ● 上部に葉や花が集中する種類が多く放置すると下部が枯れあがった状態になりやすい。 	 <p>カロライナジャスミン テイカカズラ</p> <ul style="list-style-type: none"> ● カロライナジャスミン ● テイカカズラ ● クレマチス ● ヘチマ
下垂型	 <p>壁面上部もしくは屋上部にプランター等を設置し、植物を下垂させて壁面を覆うタイプ。設置も維持管理も簡単で、安価に緑化できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 利用可能な植物が少ない。 ● 放任管理を望む場合には自動灌水装置の設置が必要。 ● メンテナンス性を高めるためには、計画段階で管理用通路を設けることが重要。 	 <p>ハインズ'ブルーパシフィック' コトネアスター類</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ヘデラ・カナリエンシス ● コトネアスター類 ● ハインズ'ブルーパシフィック' ● ピンカ・マジョール'バリエガータ'
プランター・ユニット型	 <p>壁面に設置したプランターやユニットから植物を登はんあるいは下垂させて壁面を覆うタイプ。デザイン性が高く、施工直後から高い被覆を実現できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 降雨による水の供給が乏しいために自動灌水装置の設置が必要。 ● 壁面に直接設置することから、重量に加えて構造的に複雑な加重がかかるため、建設の段階から加重負荷を考慮した壁面構造とする必要がある。 	 <p>ヘデラ・ヘリックス ヘデラ・カナリエンシスバリエガータ'</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ヘデラ・カナリエンシスバリエガータ' ● ヘデラ・ヘリックス ● イヌツゲ ● ムベ

■ 壁面緑化でエコタウンへの一歩を

壁面緑化は、ほんのわずかなスペースでも豊かな緑を育てることが出来ます。印象もとても優雅で、見る人の気持ちを癒す効果があります。しかし、これまで壁面緑化はあまり一般に広がっているとはいえません。

原因のひとつに、ツタ類の根による建物への影響が考えられます。調査ではツタ類によって建物が傷むなどの悪影響はないという報告がされていますが、壁面に直接ツタ類を這わせる際は壁面の状態調査やク

ラックなどの補修が必要です。

また、壁面緑化には建物内温度を低くし、省エネルギーや二酸化炭素削減に貢献するという素晴らしい効果があります。さらに、コンクリート面への日射や紫外線を葉が遮ることで、建物の耐久性が向上するといわれています。

壁面緑化の実施にあたっては、それぞれの緑化手法の利点、課題、費用などを検討して、計画的に進めることが重要といえるでしょう。



浜町メモリアル

中央区立 浜町集会施設



〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町 2-59-48

電話：03(5695)8051



浜町メモリアル

中央区立 浜町集会施設



〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町 2-59-48
電話：03(5695)8051